

〔優秀賞〕

◇ 私のぞむ未来



田沼小学校 6年 田崎 董

「性別にかかわらず多様な活動が選択できる男女共同参画社会の実現を目指す」という課題を見て、私はとてもおどろきました。というのも、だれもがなりたい自分を夢見て努力すれば、性別にかかわらずその願いは叶うものだと思っていたからです。職場や活動の場面によって、男性が多かったり女性が多かったりすることもあります。それはその活動を希望する人数のちがいによるものだと思っていたので、たどかたよりがあつたとしてもおかしいとは思いませんでした。

私のクラスでは、休み時間の遊びでも授業中の話し合いでも、係活動や当番活動でも、男子や女子に関わりなく、それぞれの役割や好みによって自然に行っています。したがって、男女で差別を感じることはありません。また私の両親は共働きです。仕事場では、性別関係なく能力のある人が仕事の機会や地位を得ていると聞きました。実際、母は自分がやりたい仕事をするために20代で起業し、今も第一線で仕事をしています。ですから「性別にかかわらず多様な活動が選択できる男女共同参画社会の実現を目指す」という言葉を見るまで、それが実現されていないということについて考えたことはありませんでした。

そこで、一体どんなことが問題になっているのだろうかとか疑問をもって調べてみると、例えば「大工さんは男の人の職業」ということや「家事は女の人がやるもの」という考えがあることなど、いろいろな課題があることが分かりました。私が想像していたよりも社

会は性別によって区別されていることを知り、「このままではなりたい職業につけないかもしれない」と自分の将来が心配になりました。もちろん、女性にしかできないこともあります。子供を産むことは女性にしかできません。一方で、力仕事は女性には限界があるかもしれません。しかし、必要以上に性別による差別やへん見がなくなり、性別が障害にならないような社会にしていこうためにはどうすればいいのか、私は次のように考えました。

それは、一人一人の個性を、大事にするということです。男性だから、女性だからと決めつけるのではなく、その人の特ちょうや優れた能力、技術などに目を向けていくことが必要ではないでしょうか。そして、全ての人々が性別によって活動や職業についてあきらめることなく、自分のやりたい道を目指して行動していくことが必要だと思います。その上で、お互いに長所を認め合い、短所を補い合っていく意識をみんながもつことができれば、社会は変わっていくと思います。

私のぞむ未来は、好きな仕事や活動にいつでもちよう戦でき、それをいつまでも続けられるような社会です。そして「男女共同参画社会の実現を目指す」という作文が課題とまらない未来にするために、自分が願う道を決めて、しっかりと歩んでいこうと思います。